

公開シンポジウム「遺伝子組換え作物実験施設の環境構築」

- 1 主 催：日本学術会議農業生産環境工学分科会
- 2 後援(予定)：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、農業施設学会
- 3 日 時：平成20年5月8日(木) 9:30~12:30
- 4 場 所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨

近年、ゲノム研究および遺伝子工学技術の発展によりさまざまな遺伝子組換え作物で基礎実験と栽培試験が行われている。遺伝子組換え作物等の試験研究を実施する際には、関係法令に基づき、第2種使用(閉鎖系の施設内での利用)のための閉鎖系温室および特定網室を用いる。そのため、今後の研究開発の促進のためには、中長期的視点に立ってこれらの施設を整備・充実することが求められている。

遺伝子組換え作物の栽培試験は、再現性のある精確な実験データを蓄積することが不可欠である。しかし閉鎖系温室や特定網室の内部は、温湿度、光、気流などの環境要因の空間のばらつきが大きく、季節変動もあるため、栽培試験を行う環境としては十分とはいえない。他方、これらの施設構造は商業利用の植物工場やガラス温室に似ている。そのため、植物工場やガラス温室の高度な環境制御技術を組換え実験施設に応用すれば、よりよい環境を創造し、質の高い植物実験を行うことが可能になる。

そこで本シンポジウムでは、組換え研究実験研究者と環境工学研究者が一堂に会し、施設内で安全かつ効率的に組換え植物を育成してデータを蓄積するために必要な技術を整理し、今後の閉鎖系施設の環境構築について議論する。

6 プログラム

9:30~9:35

開会挨拶

真木 太一(琉球大学農学部教授、日本学術会議会員、農業生産環境工学分科会委員長)

9:35~9:40

趣旨説明

後藤 英司(千葉大学大学院園芸学研究科教授、日本学術会議連携会員、
農業生産環境工学分科会委員)

講演

9:40~10:10

- 1) 閉鎖系温室および特定網室を用いた多様な組換え植物の特性評価実験
江面 浩(筑波大学大学院生命環境科学研究科教授)

10:10~10:40

- 2) 閉鎖系温室および特定網室での遺伝子組換えイネ等の栽培試験
笠原さおり(日本製紙株式会社研究開発本部森林科学研究所主任研究員)

10:40~10:50 休憩

10:50～11:30

3) 閉鎖系温室および特定網室に必要な環境制御と今後の施設構築
後藤 英司 (千葉大学大学院園芸学研究科教授、日本学術会議連携会員、農業生産環境工学分科会委員)

11:30～12:00

4) 閉鎖系制御環境下における植物利用型有用物質生産
村瀬治比古 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授、日本学術会議連携会員、農業生産環境工学分科会委員)

12:00～12:25

総合討論

12:25～12:30

閉会挨拶 橋本 康 (愛媛大学名誉教授、日本学術会議連携会員、
農業生産環境工学分科会副委員長)

【参加申込方法】

当日直接会場にお越し下さい。事前登録は不要です。

*定員 (300名) となり次第、締め切りとさせていただきます。

問い合わせ先：後藤英司 千葉大学大学院園芸学研究科教授
メールアドレス goto@faculty.chiba-u.jp